

令和2年2月10日

大阪市高等学校教育審議会会長 様

大阪市教育委員会
教育長 山本 晋次

大阪市高等学校教育審議会への諮問について

次の事項について、理由を添えて諮問します。

Society5.0 で実現する社会に求められる大阪の産業人材育成を担う新たな工業系
高等学校の在り方について

(理 由)

生産年齢人口の減少やグローバル化のますますの進展により、社会構造や就業環境が急速に変化するなか、様々な分野で活躍できる人材を育成することは極めて重要な教育のテーマとなっている。

本市教育委員会では、平成14年に策定した「大阪市教育改革プログラム」以降、社会の変化や生徒の個性の多様化に対応するため、一層の特色化を進めるとともに新しい時代に対応する大阪らしい教育の創造に向けた教育改革に取り組んできた。こうした中、多様な課程や学科等を備える高等学校教育について、広域的な視点で対応する方がより効果的・効率的であるという観点から、大阪府・大阪市において平成25年11月に「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」を策定し、活力ある学校づくりをめざした教育内容の充実に取り組むとともに、生徒数の減少を見据え、就学機会の確保を前提とした効果的かつ効率的な学校の配置を進めてきた。

本市高等学校においては、平成24年に商業系高等学校3校を再編整備し大阪ビジネスフロンティア高等学校を開設、また現在、普通科系高等学校3校を再編した新普通科系高等学校の令和4年開設に向け準備を進めているところであり、計画における学校配置計画における基本的な考え方に基づき、生徒減少を教育環境・教育条件等の教育の質的向上を図る好機と捉え、適正な配置を推進する観点から再編整備を行ってきたところである。

このような中、本市工業系高等学校については、就職希望者の就職率が高水準を維持していること、地域の生徒の学び場としての役割があることなど一定のニーズがある一方で、長期的な少子化傾向に加え、ここ数年顕著に見られる中学生・保護者等の普通科志向により志願状況は非常に厳しい状況にあることから、同様の観点から再編整備を進めることで工業系高等学校のさらなる魅力化を図る必要があると考える。

本市ではこれまで機械、電気を中心とした専門的な知識、技術及び技能を身に付けた将来の地域産業を担う人材の育成を主眼に工業教育を推進してきた。

一方で近年は進化した人工知能（AI）が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする IoT が広がるなど、Society5.0 で実現する超スマート社会の到来により情報化やグローバル化が一層進展すると予測されている。今後は高等学校においてもこのような時代に適応した新しい知識・技術を身につけた人材の育成が求められる。

このような状況を踏まえ、これまで本市工業高等学校が培ってきた工業教育の特色を引き継ぎながら、次代の大阪の産業人材育成を図るといった観点から、工業教育の魅力化および新たな工業系高等学校の在り方について早急に検討する必要がある。